

士別と日高山脈の親密な関係

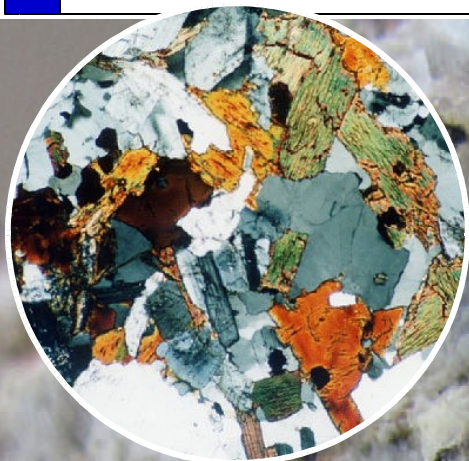
岩石名

花崗岩 Granite
(かこうがん)

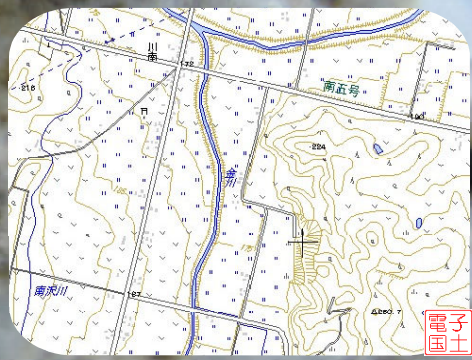
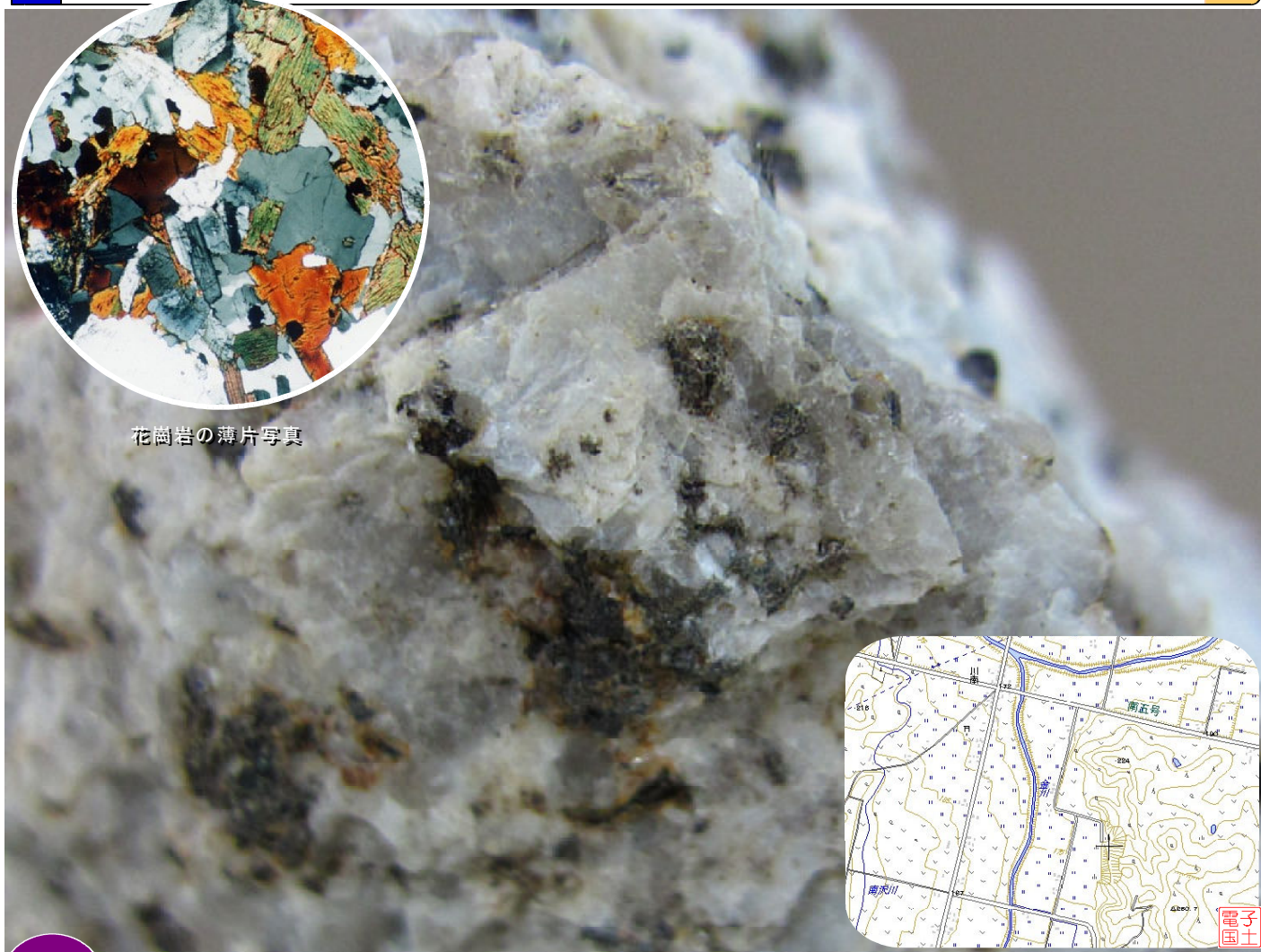
時代 新生代第三紀中新世

地質区分 日高火成岩類

産出地 士別市上士別川南



花崗岩の薄片写真



解説

士別は日高山脈の延長？■

士別市上士別の旧採石場の花崗岩です。花崗岩は、比較的石英成分の多いマグマが地下でゆっくりと冷え固まった深成岩の一種です。マグマがゆっくりと冷え固まると、すべての鉱物が大きく成長し、「等粒状組織」という構造をもつようになります。深成岩の仲間には、花崗岩、閃緑岩、斑れい岩などがあり、いずれも士別周辺で観察されます。

花崗岩の主な構成鉱物は、石英、長石、斜長石、黒雲母などで、有色鉱物の含有量が少なく、岩石全体が

白っぽく見えます。石材名を御影石といい、墓石や壁材などに広く利用されています。

士別市上士別から朝日に



士別市上士別の花崗岩の採石場

かけて、花崗岩体が点々と存在しており、士別市上士別川南には特に大きな花崗岩体があります。これは新第三紀中新世の1800

万年ほど前に地下深くで起きていた、高温の「日高火成活動」というマグマ活動によるものといわれています。日高山脈は火山ではありませんが、日高山脈をつくる最初の活動は地下のマグマ活動でした。この活動が士別の地下でも起きていたということで、士別周辺は山地にはなっていないませんが、日高山脈の北方延長部といえます。



花崗岩の石材としての利用（水郷公園）

調べてみよう

- 花崗岩をガストーチで加熱してみよう。
- 地図で日高山脈を調べてみよう。